

# 非常袋 家族で備えを

## きょう防災の日

1日は「防災の日」。東日本大震災以降、県内でも防災への関心が高まっているが、各家庭で備える「非常時持ち出し袋」は浸透していないのが現状だ。専門家は「災害時に必要なものは各家庭で違う。家族で話し合う機会をつくって」と呼び掛けている。

自治体向けの防災用品を扱うアースウィング（那覇市）は、持ち出し袋を100円均一ショップやスーパーでそろえることを提案する。

## 「100均」・スーパーでOK

同社の羽地万寿雄代表は「市販の持ち出し袋は、高齢者や赤ちゃんを想定した品はそんなに入っていない。価格も全体的に割高なので、必要なものを見極めてそろえたほうがいい」とアドバイスする。防災の講演会や被災者の体験談を通し、リストアップした歯ブラシや予備のメガネなど約50点は総額1万円以内で収まったという。防災に詳しい沖縄国際大特別研究員の稲垣暁さんは、持ち出し袋のポイントとして「見る、聞く、食べることなど普段の生活を維持するために最低限必要なもの」を

## 防災を考える

挙げる。まずは災害初日をしのぐことが重要だとし、食料や水は基本的に1日分でもいいとい

う。「身軽であることが第一。沖縄の場合、持ち出し袋を常備する習慣は広がっていないが、『万が一』にしっかり備えることが大事だ」と話した。

（渡慶次佐和）



リュックにひとまとめにできる防災グッズを紹介するアースウィングの羽地万寿雄代表（右）と防災環境事業部の宮里寿巳部長（左）。31日、那覇市三原の同社